

本プログラム実施の背景

- 2023年9月にTNFD提言v1.0が公表されて以降、開示宣言をした日本企業は金融機関も含め増加しており、自然に関する情報開示への関心は高まっているが、現状としては、具体的取組や開示事例は未だ少ない。
- もっとも、2023年のG7広島首脳コミュニケや2024年の第6次環境基本計画で指摘されたように、生物多様性と気候変動には、シナジー・トレードオフといった相互関係があり、統合的な観点で分析・評価し、対策の最適化を図る必要がある。また、金融機関がポートフォリオにおける自然関連リスク・機会を特定し、投融資先との対話を通してリスクを軽減する活動を推進すること、ネイチャーポジティブ実現に向けた機会を把握することは、将来的な投融資先の事業成長や地域への更なる貢献に繋がると考えられる。
- このため、本プログラムでは、金融機関の生物多様性・自然資本の分析・開示推進を目的としたモデルケース創出支援を実施。

<気候変動の分析と生物多様性・自然資本の分析の違い>

	気候変動	生物多様性・自然資本
環境・社会・経済に損失を与える主な要因	GHG排出	生態系サービスの損失
環境の改善・回復に関する対応方法	GHG排出の抑制	生態系サービスの保護 (自然劣化の抑制/生物多様性の保全)
対応を促すために設定する指標	投資先のGHG排出量	投融資先の自然との接点と 事業内容により異なる
金融機関としてのエンゲージメント	気候変動に関するポートフォリオの影響を理解するために、GHG排出量を基にして優先セクターを特定し、議論ができる	ポートフォリオや優先セクターにとって重要な自然との依存・インパクトの関係を特定して議論する必要がある

気候変動と比較して多様な要因があり、指標設定やエンゲージメント手法が複雑であるため、支援プログラムにて伴走を行う

本プログラムの目的

- 本プログラムは、金融機関の融資ポートフォリオにおける自然関連リスク・機会の把握・分析を通じて、具体的な取組の検討を行うモデル事例を創出するため、以下4つの内容を実施した。

1

ポートフォリオにおける
自然との関わりの分析

- 融資ポートフォリオを対象に、各セクターと自然との依存・インパクト関係を整理し、ヒートマップとして可視化
- 融資残高割合、地域内の重要性、金融機関とのリレーション、行政計画上の重要性の観点を踏まえ、優先セクターを特定

- ・ TNFD提言（戦略D）
- ・ LEAPアプローチ（L1・2・3）

2

優先セクターにおける
自然との関わりの分析

- 優先セクターのバリューチェーンの整理と依存・インパクトの大きさをヒートマップで可視化

- ・ TNFD提言（戦略A/D）
- ・ LEAPアプローチ（E1・2・4）

3

融資先拠点における自
然との関わりの分析

- 上記バリューチェーンにおける依存・インパクトの大きいサブセクターに関連する数社の企業の抽出と当該企業拠点等と**要注意地域との接点を特定**

- ・ TNFD提言（戦略D）
- ・ LEAPアプローチ（L4）

4

優先セクターにおける自
然関連リスク・機会例
の整理

- 要注意地域との接点の特定結果を踏まえた、**優先セクターにおけるリスク・機会の洗い出し**
- リスク・機会の整理結果を踏まえ、エンゲージメントやリスク管理、融資方針の確認等の対応策の検討

- ・ TNFD提言（戦略A/D）
- ・ LEAPアプローチ（A1）

本プログラムの対象範囲

- TNFD提言では、自然との接点、自然との依存関係、インパクト、リスク、機会など、自然関連課題の評価のための統合的なアプローチであるLEAPアプローチが推奨されている。
- 本プログラムでは、Locate・Evaluateの分析を中心に実施。

スコープの設定

		Locate（発見する）	Evaluate（診断する）	Assess（評価する）	Prepare（準備する）
ア プ ロ ー チ	L E A P	1 L1 ビジネスモデルと バリューチェーンの範囲	2 E1 環境資産、生態系サービスと インパクト要因の特定	4 A1 リスクと機会の特定 ※融資先のリスク・機会の整理まで実施	P1 戦略と資源配分計画
		1 L2 依存とインパクトの スクリーニング	2 E2 依存とインパクトの特定	A2 既存のリスク緩和および リスクと機会の管理の調整	P2 ターゲット設定と パフォーマンス管理
		1 L3 自然との接点	E3 依存とインパクトの測定	A3 リスクと機会の測定と 優先順位付け	P3 報告
		3 L4 要注意地域との接点	2 E4 インパクトのマテリアリティの評 価	A4 リスクと機会の マテリアリティの評価	P4 表示
T N F D 提 言 対 応 する		・ 戦略D	・ 戦略A/D ・ リスクとインパクトの管理 A(i および ii) /B ・ 測定指標とターゲットB	・ 戦略A/C/D ・ リスクとインパクトの管理 A(i および ii) /B/C ・ 測定指標とターゲットA/B	・ ガバナンスA/B/C ・ 戦略B/C ・ 測定指標とターゲットC

支援先機関の本日の発表内容

- 取組成果、本プログラムに参加しての所感と今後の課題を中心に、支援先機関3行に発表頂く。

項目	具体的な内容
1. 基本情報	- 金融機関の基本情報 - 経営計画における自然資本の位置づけ、自然資本に関する取組や方針
2. 本プログラムへの参加理由・ゴール等	- 本プログラムへの参加理由 - TNFDに関する取組の現況 - 本プログラムで目指すゴール
3. 取組成果	(1) 優先セクターにおける自然との関わりの分析 - ポートフォリオにおける自然への依存・インパクト - 融資残高と自然への依存・インパクト - 優先セクターの決定 (2) 融資先拠点における自然との関わりの分析 - バリューチェーンにおける依存・インパクトの確認 - 優先セクターのバリューチェーンの整理 (3) 融資先拠点における自然との関わりの分析 - 要注意地域との接点の確認 (4) 優先セクターにおける自然関連リスク・機会例の整理
4. 本プログラムに参加しての所感と今後の課題	- 知見・気づき - 課題 - 今後のスケジュール - 分析結果の活用